

平成30年6月25日現在

機関番号：84301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25284032

研究課題名(和文) 東アジアにおける繡仏の基礎的研究

研究課題名(英文) Basic study of embroidered Buddhist images in East Asia

研究代表者

伊藤 信二 (Ito, Shinji)

独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部・室長

研究者番号：00443622

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 16,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は刺繍により仏教尊像や仏教的主題を表現した繡仏について、図像・技法・様式を分析し、繡仏を総合的・体系的に捉えることを目的とするものである。この目的に則り、日本国内、国外の日本製作品(一部中国、朝鮮半島製)の所在情報を獲得し、同時に約80点について実見調査を実施した。奈良国立博物館とも共同調査を実施し、その成果は同館が2018年に開催する、繡仏を主要なテーマとする特別展にもいささかの寄与をすることとなった。研究代表者が2005年に刊行した書籍以降も、繡仏作品の新発見が相次ぐ中、本研究は新発見の作品を新たに位置づけるとともに、さらなる作品の新発見と報告、再認識を促す契機を作った。

研究成果の概要(英文)：This research aims to analyze iconography, technique and style of embroidered Buddhist images. In accordance with this objective, we acquired location information of Japanese-made works (some in China and Korean) in Japan and abroad, and at the same time conducted a survey on about 80 points. We also conducted a joint survey with the Nara National Museum, and the result of that was to contribute a little to the special exhibition whose main theme is embroidered Buddhist images in 2018. Many embroidered Buddhist images were found after the books published by the research representative in 2005. This research has newly positioned newly discovered works. At the same time, he created opportunities to encourage new discovery, reporting and re-recognition of further works.

研究分野：仏教工芸、金工

キーワード：繡仏 刺繍 図像 画風 仏教

1. 研究開始当初の背景

繡仏はすでに初期の仏典に記述がみえ、仏教の伝播とともに、西域をへて中国で作られた。日本では6世紀、朝鮮半島からの仏教伝来とともにもたらされ(『日本書紀』)飛鳥～奈良時代(6～8世紀)における旺盛な造詣は、豊かな文献史料と現存作例に明らかである。当時の寺院資財帳にはたびたび繡仏が登場することが知られるし、聖徳太子逝去のち橘大郎女が推古帝に祈願し勅命によって制作された天寿国繡帳(奈良・中宮寺)や、法隆寺に伝来した各種の繡仏裂に代表される飛鳥時代7世紀の作例については、従来より詳細な分析がなされてきた。古代の繡仏研究が充実している背景には、豊富な記録や現存作例の存在に加え、壁画等を除いて、同時代の単独絵画作品の現存作例が希少なことから、染織分野のみならず、古代仏教における美術造形史の対象として広く注目されてきたという事情がある。

しかるに日本の中世以降、あるいは同時代の中国の繡仏については、相当数の現存作例があるにも関わらず、個別的な資料紹介や展覧会での作品解説にとどまり、それらの図像・技法を詳細に分析し、様式編年化する作業はほとんど行われてこなかった。繡仏全般に関しては、奈良国立博物館での特別展をもととした『繡仏』(奈良国立博物館監修 角川書店 1964年)が日本の古代～中世、ごく一部に近世と中国の作例を含め、約158点を紹介しており、特に中世の作品を多く取り上げて主題別に分類し、広く国内の繡仏に目を配ったほぼ唯一の成果であった。しかし繡仏制作は、日本中世～近世期にも連綿と行われてきた営為であり、通常の絵画表現とは大きく異なる表現媒体として、繡仏は美術史上に確固たる領域を占めるものと認識されるべきである。研究代表者は、『日本の美術 470 繡仏』

(2005年 至文堂)において、先の奈良国立博物館監修『繡仏』に未収録で、かつ重要と目される作品20点程度を加えつつ、古代～近世の繡仏のおおまかな全体像を提示した。しかしながら紙幅の都合もあって、明確な基準を示すに至らず、作品の羅列に終始した点は否めない。その一方で、本著作刊行後に寄せられた新出品の所在情報や、展覧会に出陳されて広く存在が知らしめられたものなどが多数出現した。これら諸作例を対象に加えた上で、日本中世～近世期および東アジアにおける繡仏の総合的・体系的な研究がなされるべきとの思いから、本研究を構想するに至った。

2. 研究の目的

本研究では、刺繡により仏教尊像や仏教的主題を表した「繡仏」について、日本中世～近世期を中心に、同時期の中国・朝鮮半島など東アジアの作例をも視野に収めつつ、現存作例の調査にもとづいて図像・技法・様式を分析し、仏教絵画史および染織史の観点から同時代繡仏を総合的・体系的にとらえることを目的とする。従来このジャンルでは、日本・飛鳥～奈良時代を含む東アジア古代については、文献史的研究と実作品の詳細な分析が充実しているが、以降については断片的な言及にとどまり、現存作例数の確定すら覚束ない状況にある。本研究の推進により、各時代を通じて連綿と営まれた繡仏をより総合的・体系的にとらえうるとともに、東アジア仏教美術における、繡仏という表現媒体の位置づけを、いっそう明確にすることができると考えた。

3. 研究の方法

本研究は第一に、日本中世～近世期および同時代東アジア繡仏の現存作例を掌握したうえで、重要と目される作例を可能な限り網羅的に調査することが大前提となる。作品調査に際しては肉眼観察及びデジタル

撮影を行い、以後の検討材料とする。次いで、各作例の図像・材質技法を分類整理し、地域別・時代別といった観点からの様式判断の指標を固める。作品群はおおむね日本中世、近世を中心に、中国・朝鮮半島・その他地域も視野に入れつつ、各作例の特色を洗い出す。調査作例の図像・材質技法・様式から、地域的・時代的・主題的特色を総合的に検討したうえで、繡仏の全体像を体系的に捉える。

4. 研究成果

○繡仏作品実見調査

下記繡仏作品を実験調査し、データ測定、画像撮影を実施した。

- ・国宝刺繡如來說法図 1幅 唐時代 8世紀 (奈良国立博物館)
- ・刺繡如来三尊図 1幅 唐時代 8世紀 (大英博物館)
- ・刺繡幡残欠 5点 唐～宋時代 8～10世紀 (大英博物館)
- ・刺繡キリスト像 2枚 明時代 17世紀か (V&A 美術館)
- ・刺繡種子文袈裟 1領 江戸時代末期～近代 (V&A 美術館)
- ・刺繡幡残欠 3点 唐～宋時代 8～10世紀 (V&A 美術館)
- ・刺繡千手観音菩薩図 1幅 南宋時代 12～13世紀 (台北國立故宮博物院)
- ・刺繡仙人図 12幅 明時代 17世紀 (台北國立故宮博物院)
- ・刺繡咸池浴日図 1幅 南宋時代 12～13世紀 (台北國立故宮博物院)
- ・刺繡師普賢菩薩 1幅 清時代 17世紀 (台北國立故宮博物院)
- ・刺繡釈迦三尊図 1幅 鎌倉時代・14世紀 (山梨・久遠寺)
- ・刺繡阿弥陀三尊来迎図 1幅 室町時代 15世紀 (山梨・九品寺)

- ・刺繡十羅漢図 1幅 江戸時代か (福岡・個人蔵)
- ・刺繡釈迦誕生図 1幅 朝鮮時代か (長崎・最教寺)
- ・刺繡両界曼荼羅図 1幅 南北朝時代 14世紀 (福井・西福寺)
- ・刺繡釈迦涅槃図 1幅 江戸時代 17世紀 (石川・弘願院)
- ・刺繡阿弥陀三尊図 1幅 室町時代 15世紀 (福井・西福寺)
- ・重要文化財 刺繡阿弥陀三尊来迎図 1幅 平安～鎌倉時代 12～13世紀 (滋賀・宝蔵寺)
- ・刺繡普賢十羅刹女図 1幅 鎌倉時代 14世紀 (滋賀・宝蔵寺)
- ・刺繡阿弥陀三尊来迎図 1幅 室町時代 15世紀 (東京国立博物館)
- ・刺繡種子三昧耶幡 2流 室町時代 16世紀 (東京国立博物館)
- ・刺繡阿弥陀三尊来迎図 1幅 鎌倉時代 14世紀 (神奈川・清浄光寺)
- ・刺繡種子六字名号 1幅 桃山時代 16世紀 (神奈川・清浄光寺)
- ・髪繡阿弥陀三尊来迎図 1幅 室町時代 15世紀 (神奈川・清浄光寺)
- ・重要文化財 刺繡阿弥陀三尊図 1幅 平安～鎌倉時代 13～14世紀 (石川・西念寺)
- ・刺繡種子阿弥陀三尊図 1幅 南北朝～室町時代 14～15世紀 (大阪・金剛寺)
- ・刺繡種子阿弥陀四尊図 1幅 室町時代 15世紀 (京都・智恩寺)
- ・刺繡阿弥陀三尊来迎図 1幅 室町時代 15世紀 (京都・智恩寺)
- ・刺繡六字名号 1幅 室町時代 15世紀 (京都・智恩寺)
- ・刺繡阿弥陀三尊来迎図 1幅 鎌倉～南北朝時代 14世紀 (京都・大雲院)
- ・刺繡釈迦涅槃図 1幅 江戸時代 17世紀 (千葉・松翁院)
- ・刺繡釈迦涅槃図 1幅 江戸時代 17世紀 (岐阜・盛蔵寺)

- ・刺繍釈迦八相涅槃図 1 幅 江戸時代 17 世紀 (京都・天龍寺)
- ・刺繍種子幡 10 流 鎌倉時代 14 世紀 (滋賀・石道寺)
- ・刺繍種子阿弥陀三尊図 1 幅 南北朝～室町時代 14～15 世紀 (宮城・称念寺)
- ・重要文化財 刺繍楊柳観音図 1 幅 元時代 14 世紀 (京都国立博物館)
- ・刺繍釈迦阿弥陀図 1 幅 鎌倉時代 14 世紀 (京都国立博物館)
- ・刺繍阿弥陀三尊来迎図 南北朝時代 14 世紀 (京都・(京都・檀王法林寺))
- ・刺繍種子阿弥陀三尊図 1 幅 室町時代 14 世紀 (京都・檀王法林寺)
- ・刺繍法華経 1 巻 元時代 14 世紀 (京都・智積院)
- ・重要文化財 刺繍大日如来図 1 幅 鎌倉時代 14 世紀 (京都・細見美術館)

○大型作品スキャナー撮影

刺繍釈迦涅槃図 1 幅 江戸時代 17 世紀(千葉・松翁院)は縦が3メートルを超える大型の刺繍涅槃図であり、浮世絵師として著名な菱川師宣とその父吉左衛門が共同制作した作品として、近年注目されている作品であったが、大型で全体像の写真撮影や調査が困難であったため、大型スキャナーを現地に設置し、高精細の画像を撮影した。

○調査作品の文化財指定

刺繍釈迦三尊図 1 幅 鎌倉時代・13 世紀(山梨・久遠寺)は、釈迦如来を中として左右に騎獅文殊、騎象普賢の脇侍菩薩を配したいわゆる釈迦三尊図を色系の刺繍で表した作品である。構成、図像、像容は精美で、刺繍の技法も細緻であり、鎌倉時代 14 世紀の作風を示す優品と認められた。本件調査による所見などを反映して、当該作品は平成 26 年度の山梨県指定文化財に指定された。

○奈良国立博物館との共同調査

奈良国立博物館と共同で繡仏作品を調査した。その成果の一部は、同館で 2018 年に開催される特別展に反映されることとなった。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

降旗順子・伊藤信二「年記銘を有する金属工芸品の蛍光エックス線分析調査」『学叢』40 号 2018 年 3 月 京都国立博物館 81-94p 査読無

伊藤信二「平安時代、鎌倉時代の繡仏」『糸のみほとけ - 国宝綴織曼荼羅と繡仏』2018 年 7 月 奈良国立博物館 240-243p 査読無

伊藤信二「重要美術品 線刻十一面観音鏡像」『國華』1444 号 2016 年 2 月 國華社 40-45p 査読無

伊藤信二「日本国宝展 - 「祈り、信じる力」の造形」『日本国宝展』2014 年 10 月 東京国立博物館 7-15p 査読無

[学会発表](計0件)

[図書](計0件)

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別：

(平成 25～29 年度)

取得状況 (計 件)

土屋 貴裕 (TSUCHIYA, Takahiro)

東京国立博物館・学芸企画部・主任研究員

研究者番号：40509163

名称：

(平成 25～29 年度)

発明者：

権利者：

猪熊 兼樹 (INOKUMA, Kaneki)

種類：

東京国立博物館・学芸企画部・主任研究員

番号：

研究者番号：30416557

取得年月日：

(平成 28～29 年度)

国内外の別：

[その他]

末兼 俊彦 (SUEKANE, Toshihiko)

特別展「国宝展」2017 年 10 月 京都国立博物館

東京国立博物館・学芸研究部・主任研究員

研究者番号：20594047

特集展示「名刀聚英 - 永藤一の愛刀 - 」
2017 年 6 月 京都国立博物館

(平成 28～29 年度)

特別展「春日大社 千年の至宝」2017 年 1
月 東京国立博物館

高木 結美 (TAKAKI, Yumi)

東京国立博物館・学芸企画部・アソシエイト

特別展覧会「坂本龍馬」2016 年 10 月 京
都国立博物館

フェロー (当時)

研究者番号：70647908

特集展示「日本の貨幣 - 富本銭から大判・
小判まで - 」2016 年 8 月 東京国立博物館

(平成 25～27 年度)

特集展示「七宝 金属を飾る彩り」2016 年
4 月 東京国立博物館

(3) 連携研究者

特別展「鳥獣戯画 京都 高山寺の至宝」
2015 年 4 月 東京国立博物館

()

特別展覧会「日本国宝展」2014 年 10 月 東
京国立博物館

研究者番号：

6. 研究組織

(4) 研究協力者

()

(1) 研究代表者

伊藤 信二 (ITO, Shinji)

京都国立博物館・学芸部企画室・室長

研究者番号：00443622

(2) 研究分担者

塚本 磨充 (TSUKAMOTO, Maromitsu)

東京大学・東洋文化研究所・准教授

研究者番号：00416265